

ポスト冷戦期の日韓関係 その打開の道をさぐる

今年に入り、徴用工問題、慰安婦問題などの歴史清算をめぐる争点、輸出基準の厳格化による経済関係の停滞、韓国政府によるGSOMIA（軍事情報に関する包括的保全協定）の破棄表明による安保問題での対立など、日韓関係はさまざまな分野で深刻な対立を迎えています。同時に、こうした対立のもとで、韓国では日本製品不買運動が広がり、一方で日本国内では連日メディアが韓国に対する批判が繰り広げられ、市民レベルでの感情的対立も煽られています。

こうした状況は決して望ましいものではなく、日韓両国の対立状況は一刻も早く解消されなければなりません。そのためには安倍首相が「最優先の課題は徴用工問題である」と述べているように、歴史問題が日韓対立の本質的な課題であり、それに向き合うことなしに日韓関係の修復、改善は困難であろうと考えます。

そうした観点から現在の日韓を打開していく道を探るシンポジウムを開催します。ふるってご参加ください。

【日時】 **12月1日(日) 14:00~**

【場所】 **たかつガーデン 8F**

【参加費】 **1000円**

【パネリスト】



ムン キョンス
文京洙

法政大学卒業後、中央大学法学部に進学、法政大学大学院修士課程修了。国際基督教大学助手をへて、立命館大学国際関係学部教授。現在同大学特任教授。主な著書に、『済州島現代史—公共圏の死滅と再生』（新幹社）、『韓国現代史』（岩波新書）、『在日朝鮮人問題の起源』（クレイン）など



きど えいいち
木戸衛一

1957年、千葉県生まれ。1988年、一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、ボーフム大学（ドイツ）東アジア学部客員教授（大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授）



カン ヘジョン
姜恵楨

韓国ソウル在住。大学卒業後、日本に留学して長年の在住経験を持つ。朝鮮半島と日本の関係、韓日市民社会の様々な共通課題に関心を持ち、「アジアの平和と歴史教育連帯」「正義記憶連帯（旧・韓国挺身隊問題対策協議会）」などで活動している。

コーディネーター：カク チヌン 郭辰雄（コリアNGOセンター代表理事）



近鉄「上本町」下車徒歩3分／地下鉄「谷町九丁目」下車徒歩6分

【お問合せ】（特活）コリアNGOセンター

TEL 06-6711-7601 <http://korea-ngo.org>